

# 卒業生



学科賞受賞を記念して今城学長と（撮影：天野 貴司）

*Congratulations  
on your Graduation*

## 特集 私たちの卒業

■ 教員の活動紹介<sup>18</sup>／先輩から後輩へ<sup>18</sup>

■ 校友会－新役員紹介－

■ サークル紹介<sup>3</sup>

■ ハラスメント講演会

■ ネットワーク委員会

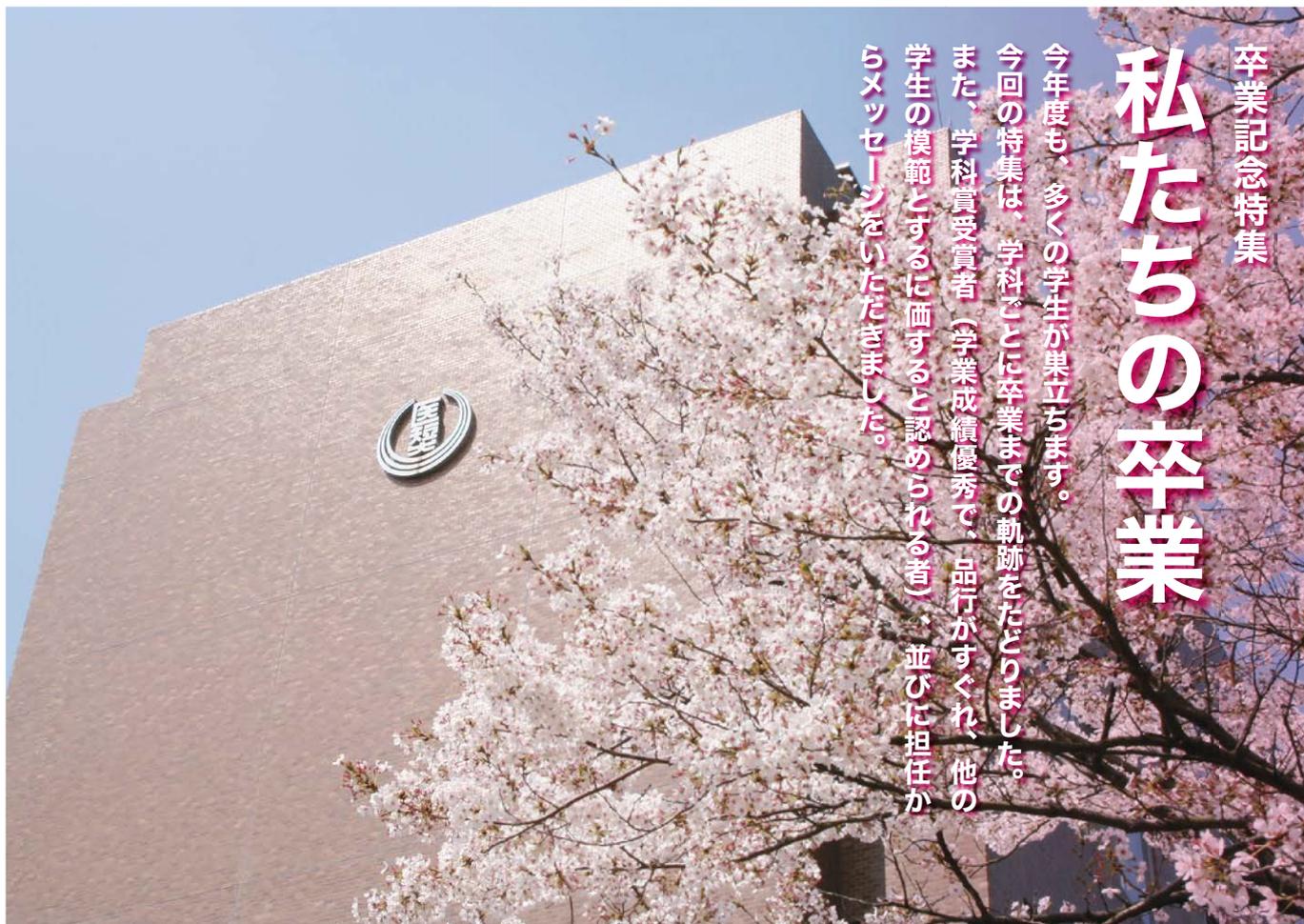
■ 短歌表彰／川崎エコプロジェクト

■ インフォメーション

卒業記念特集

# 私たちの卒業

今年度も、多くの学生が巣立ちます。  
 今回の特集は、学科ごとに卒業までの軌跡をたどりました。  
 また、学科賞受賞者（学業成績優秀で、品行がすぐれ、他の学生の模範とするに価すると認められる者）、並びに担任からメッセージをいただきました。



看護科三十五期生



■留学生（徐敏君 じよびんくん）



気がつけば、日本で三回の四季を過ごしていました。キャンパスライフを日本で送るとは夢にも思っていないませんでした。人生観、価値観がまだ確立していなかった十九歳の頃に日本に来てから、日本人の文化、習慣から考え方まで、確実に私に大きな影響をもたらしたと自覚しています。本学で学び日本を好きになって、この国の人も好きになって、これから中国に帰っても日中友好に少しでも力になればいいなあと思っています。

■留学生（林珏りんぎょく）



三年前、看護を学びたいという気持ちで日本に留学させていただきました。学業はもちろん、日本のすばらしいもてなし、素直な心も学習することができました。また、たくさんの方々から励まされたり、助けられたりしたからこそ、楽しい三年間の留学を円満に終えることができました。これから「一期一会」という気持ちで看護の道へ歩もうと思えました。





臨地実習での一場面



学内での基礎看護実習



由加山での学外研修

**■三次次「仲間と支え合い乗り越えた実習」**（宮本 洋子）  
 一、二年生では、看護の基本的な知識を学び、三年生ではいよいよ看護実習が始まりました。ナースキャップを戴き、一歩ずつ看護師に近づいてきたなど感じていた中での実習の始まりでした。期待と不安をにじませながら、実習先に向かったことを今でも覚えていきます。失敗すれば、看護師さんに厳しく指導していただき、失敗して落ち込んでいたときには患者さんから優しく声をかけていただき実習中の励みになりました。  
 実習は、とても辛い半年間でしたが、仲間とともに支え合い、そして看護師としてのあり方を私なりにつかめた一年間でした。今まで以上に充実した一年間にすることができたことを、お世話になった方々に感謝したいと思います。

**■二次次「看護師としての意識を高めた日々」**（松田 直樹）  
 二年生では、授業の内容も病態のような覚える内容から「看護」を考えていく本格的な内容にかわっていききました。戴帽・授章式では男子はバッチを女子はナースキャップを受け取り、これからの実習への気持ちが高まりました。そして基礎看護学実習IIで初めて患者さんを受け持たせて頂き、患者さんのためにどのようなことができるのかを考えていく難しさを痛感しながら自分なりに精一杯、看護について考え、実際に行っていました。  
 実習最終日の挨拶の時、患者さんから「ありがとう」という言葉を頂き、感動したことが今でも心に残っています。自分がしたことが少しでも患者さんのためになったのだと実感しました。

**■一次次「同じ道を歩む仲間との出会い」**（正呂地 祐香）  
 新しい環境での大学生活が始まり、初めは緊張し戸惑うこともありましたが、そんな中で、交流を深めるための学外オリエンテーションでは自然にっばいの中で野外炊事をしました。みんなで作ったカレーライスは苦勞しただけおいしく出来上がり、仲間や先生方と親睦を深めることもでき、よい思い出になりました。  
 講義では、看護や身体構造など専門的な学習が始まり、多くの専門用語や看護技術などの習得を難しく思うこともありましたが、友達同士で励まし合いながら学習を進めていきました。看護の道に足を踏み入れたことで、悩むことや難題にぶつかることもありましたが、同じ道を進む仲間が一緒にいることで頑張れる確信がもてたのが一年生の時でした。

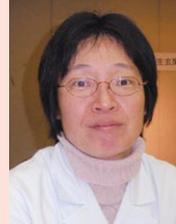


看護科三十五期生

**■担任から卒業生へ**  
 ご卒業おめでとうございます。皆さんと過ごした三年間は、忘れ難い貴重な時間でした。辛い時や苦しい時、お互いに助け合った本学での生活を糧に、次は社会人として学び成長していただく下さい。  
 （榎本 朋子）

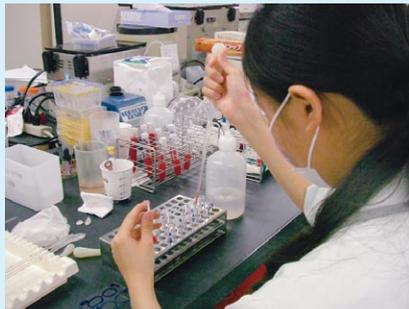
ご卒業おめでとうございます。個性豊かな皆様と出会え、共に楽しく三年間を過ごすことができました。ありがとうございます。これからも至誠を貫き自分の道を進んでいってください。  
 皆様のご活躍を心から願っています。  
 （太田 栄子）

**■学科賞受賞者から**（山口 裕以）  
 私はこの三年間、看護を学ぶことを通じて多くの人と関わり、精神的にも強くなり、人間としてとても成長できました。また、実習では「生きる」とことについて考え、命の大切さを学ぶことができました。ここまで頑張れたのも一緒に頑張ってきた友達、先生方や家族の支えがあったからだと思っています。  
 四月からは一社会人として責任を持ち、患者さんのためにしっかりと貢献できる看護師になれるよう日々笑顔と感謝を忘れず努力していきたいと思っています。後輩の皆さんも、学生である「今」を大切に、努力を惜しまず、毎日の学習や実習を精一杯頑張ってください。





研究発表会：3年間の総まとめです



臨床実習：1滴に全神経を集中します



採血実習：先輩に指導を受けながら頑張りました

■一年次「大変だった学内講義」（中西 正憲）

本学に入學して一番に感じたことはなにより勉強が大変だということでした。一年生の時から専門科目を勉強するので本当に目の回るような忙しさでした。

入学前のオープンキャンパスの時に「大学入試の時よりも勉強する」ということは聞いていたのですが、今思い返してみるとまったくその通りだと感じました。課題やテストなどワタワタしていたら、あつという間に一年が過ぎてしまったような感じがします。本当に忙しい日々でしたが、何とか乗り越えてみれば充実した一年だったように思います。

■二年次「臨床実習」（高橋 結香）

後期から川崎医科大学附属病院において実習を行いました。技師の方々の講義や充実した実習内容により、本学で得た知識が定着するだけでなく、より理解を深めることが出来ました。また、出血時間など患者さんに対応する実習も行い、医療従事者としてどのように患者さんと接するべきか、実際の現場でなければ学ぶことの出来ない「接遇」も身につけることが出来ました。実習を通して、医療現場における臨床検査技師の役割やその重要性、責任の重さを再認識させられたとともに、長い期間を班員と協力し合いながら乗り越えられたことは、人間としても大きく成長できた一年だったのではないかと思います。

■三年次「研究発表会」（大山 愛未）

本学で過ごした三年間は毎日がとても新鮮で充実した日々でした。授業、病院実習を通して専門知識を得ると共に、臨床検査の世界にどんどん引き込まれていきました。研究発表会では各々がテーマを掲げ、研究の成果を出すために努力しました。そして発表会当日、壇上にはいつも不安を抱えていた一年生の頃とは違い、自信に満ち溢れた姿があり、そのような仲間たちと共に学んで来られたことを誇らしく思うと同時に、自分自身もまた大きな達成感を得ることが出来ました。国家試験を無事乗り切り、クラス全員が笑顔で春を迎えられるよう、一丸となって最後まで全力で頑張りたいと思います。

臨床検査科三十五期生



■学科賞受賞者から（村川 佳子）

入学してはや三年が経ち、卒業を迎えようとしています。本学科でのカリキュラムは、三年という短い期間で膨大な専門知識や技術を習得しなければならず、時には投げ出したくなることもありましたが、同じ目標を持つ仲間が存在があったからこそ、乗り越えることができました。



今後は、患者さんや医療スタッフに信頼される臨床検査技師を目指し、多くのことを吸収しながら常に目標を持って頑張りたいと思います。

本学の病院実習はとても充実していて、より実践的な技術等を学ぶことができそうです。先輩の皆さんも、日々の積み重ねを大切にして頑張ってください。

■担任から卒業生へ

ご卒業おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。



人生は常に学びの連続です。焦らず、急がず、諦めず、自分自身と向き合い、日々大切に過ごしてください。ご健康とご多幸をお祈りし、今後のご活躍を期待いたします。

（岸本 光代）

ご卒業おめでとうございます。そして本当にご苦労様でした。



皆さんが臨床検査科で精一杯努力されたことは、皆さんにとって大きな誇りであり、これからの人生のさまざまな場面で確かな支えとなるでしょう。

どうか皆さん、健康に気をつけ、人に優しく、そして誠実に仕事をしながら、それぞれの道を歩んでください。

（河口 豊）



寮の友人と(中央が筆者)



卒業研究発表風景(左側が筆者)



臨床実習風景(右端が筆者)



入学式前の様子(左端が筆者)

■一年次「入学式」(竹本理人)

入学式の一週間前からオリエンテーションがあり、大学生活について色々な説明を受けました。その説明のため初めて教室に入った時、机の上に教科書がたくさん入った段ボールが置かれていました。教科書を手にとって見てみると、見たことも聞いたこともない内容ばかりで授業についていけないのか不安になったのを覚えています。様々な不安を感じながらも、診療放射線技術師に必ずなるんだという強い気持ちを持って入学式に臨みました。

■二年次「臨床実習」(榎井あずさ)

十月から十ヶ月間川崎医科大学附属病院で臨床実習を行いました。講義で習った基礎的知識を生かしながら臨床で実際に検査を見ることで、より深く理解することができました。また、患者さんに不快感を与えないような身だしなみやマナーを心がけることや、検査を安全確実に行うために日常の始業点検・終業点検の重要性など医療人として、肉体的安全、精神的安全を維持するための基本姿勢も身につけることができました。また、実習を通して勉強だけでなく、職員と日々協力することで絆が深まり、仲間の大切さを学ぶとともに自分を成長させることができました。

■三年次「卒業研究」(安部貴成)

卒業研究は僕を成長させてくれたと思っています。卒業研究発表を行うまでには、実験データの収集から始まり多くのステップがあります。そのステップを悩み苦しみながら一段一段確実にのぼることで、自分の中に少しずつ知識が身に付き、それが自信となっていました。その甲斐があつて発表会では緊張はしましたが不安な気持ちは一切ありませんでした。これから社会人となり、壁に直面した時には、この時の経験を思い出したいと思います。

■三年間の寮生活(小松望)

初めての寮生活は色々戸惑いがありました。友人にも恵まれすぐに慣れることが出来ました。定期試験の時は、友達が遅くまで頑張っている自分も頑張ろうと思えます。分からない所は聞くなどして、助け合いました。また、私たちはみんなで何かをすることが好きで、銅パーティーをしたり、クリスマス会をしたりなど楽しく寮生活を送りました。この三年間で、勉強面でも生活面でも互いに向上し合える関係を築くことが出来ました。



放射線技術科三十一期生

■学科賞受賞者から(福岡知宏)

学科賞という名誉ある賞を受賞できたことを大変嬉しく思っています。今回の受賞は、三年間私を支えてくださった人々のおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。この受賞に慢心せず、更なる向上心をもって社会に出たいと思っています。



三年間という短い期間で多くのことを学ぶ必要があります。したがって、後輩の皆さんへのアドバイスとしては、理解できないことはそのままにしておかず、すぐに教科書で調べたり、先生や友達に聞いたりをすることを勧めます。また、学生生活に慣れてくると目標を見失ったり、勉強から逃避してしまったりすることもあります。そういった時には焦らず原点に戻ってみることも大切です。がんばってください。

■担任から卒業生へ

御卒業おめでとうございます。



でも、社会に出れば、また一年生です。最初は、すべての仕事に戸惑い、手間取り、叱られ、焦ることもあるでしょう。だからと言って、仕事を手早くこなすために、必要な作業工程を省略したり誘惑に負けたりしないでください。手を抜くと、確かに一時的には仕事が速くなります。しかし、皆さんは医療人です。手を抜くことは、必ず医療の質を落とします。質の高い医療を提供できる放射線技術師として、活躍されることを期待しております。最後まで小うるさい担任で、ごめんなさい。(原内一)



金刀比羅宮での一コマ



うどん作り (右端が筆者)



学内での介護実習の様子



介護技術の練習に励む筆者

■一年次「初めての学外実習」(幡中 右京)

初めて実習に行った時、ちゃんと実習を終えられるかどうか不安でした。学内でコミュニケーションの方法や介護技術など第一階実習に必要な講義や実習は受けましたが、実習のことを考えると心配なことがたくさんありました。

何より、一番不安で難しいだろうと思っていたのは、利用者の方とどう関わっていくかでした。初対面の方に挨拶や会話がちゃんとできるのか、それが一番の不安の種であり、これができないと実習が成立しないという思いがありました。そのため、実習初日はとても緊張し、利用者の方とあまり会話をすることができませんでした。しかし、それから一週間経った頃には、利用者の方と普通に会話をすることや、職員の方から指導をうけながらも、介助の補助を行うことができるようになりました。

この第一階実習で学んだことは、今後につなげていくことができるとも良い経験になりました。

■二年次「学外研修」(京兼 里枝)

私の印象に残っている二年生での思い出は、六月に一年生や先生方も含めて学外研修で香川県にうどん作りと金刀比羅宮に行ったことです。

入学したばかりの一年生と同じバスに乗り、お菓子を食べながら、これからの本学での講義や実習の話をしたことを思い出します。

うどん作りでは、曲に合わせてうどんを踏んでいる楽しそうな友人や先生方を見て笑い、明らかに「選曲ミスだろう」と、突っ込みたくなるような曲に爆笑しました。お昼ご飯は、みんなで作ったうどんを食べ、不揃いなうどんたちにまた笑いしました。

雨が降っていて傘が手放せない学外研修でしたが、みんなで写真を撮ったり話をしたり、笑顔の絶えない一日でした。なにより、日頃は話をする事のなかった一年生と交流できたことが私にとって良い思い出になり、これをきっかけに交流するようになった一年生も多かったです。

介護福祉科八期生



■学科賞受賞者から (西谷 綾香)

本学の生活で一番印象に残っていることは介護実習です。利用者の方との出会いを通じて介護福祉士は、「人と人が触れ合える素晴らしい仕事」だと感じました。心が通じ合った時の喜びや利用者の方の笑顔、心の温かさに触れることができ、介護の魅力を感じることができました。大変なこともたくさんありましたが、優しい先生方や友達の支えがあったからこそ、やり遂げられたのだと思います。いつも励ましてくれて、元気をくれた友達には感謝しています。



これからは、二年間で身に付けた知識や技術を活かしながら「笑顔」と「思い」を大切にできる介護福祉士を目指して頑張りたいです。本学の介護福祉科で学べたことは誇りです。

■担任から卒業生へ

ご卒業おめでとうございます。実習や講義などなど慌ただしく過ぎ去り、本当に早かった二年間ではなかったでしょうか。また、この間、たくさん知識を身につけ、楽しい思い出を作ることができたのではないのでしょうか。私もみなさんのおかげで多くのことを経験することができ、また、毎日元気をもらっていました。なにより、みんなが開催してくれたサブライズバスデーには本当にびっくりして嬉しかったです。



こんなことができる八期生、これからも周りの人々と喜びを分かちあえるような介護福祉士になってください。

(河辺 聡子)



オペレッタ：かくや姫



実習成果発表会



絵本の読み聞かせ

■**三年次「大好きな仲間と最高の思い出」**（小林美香里）  
オペレッタで私が演じたわがままかぐや姫役では、その「わがまま」の演じ方にも悩みました。初めはただいじわるなキャラクターにもなってしまう、「自分勝手さ」を出すのがとても難しかったです。演技を何度も試し、ようやくわがままかぐや姫が誕生しました。「こんな友達いたら絶対いや！」と笑いながらメンバーと話し、楽しみながら演じることができました。オペレッタを通して、三期生の絆を改めて感じました。自分たちの練習場所や機材を譲り合いながら、一人ひとりが全力を注ぎ、みんなで日々、成長していきました。大好きな仲間との最高の思い出です！

■**二年次「実習だからこそ学び」**（信本文絵）  
保育所実習に行く前は不安でいっぱいでした。でも、実際に行ってみると子どもたちと触れ合うことが楽しく、日々期待を持って保育所へ通っていたことを覚えていきます。子どもの笑顔はもちろん、お友だちが使っていたおもちゃを奪い取っていた子どもが「貸して」と伝えることができるようになるなど、子どもの成長を身近で感じることもできる保育士としてのやりがいを知ることができました。また、実習先の先生から、保育士としての知識や考え方、心構え、さらに失敗を恐れないこと、そこから学ぶことが必ずあるのだということも教えていただきました。これからも心に留めていきたいと思っています。

■**一年次「これまでとちがう授業内容」**（海原ゆか）  
絵本の読み聞かせには抑揚をつけたり、声の大きさを変えたりと読み方の違いによって子どもの受け取り方や感じ方が違うのだということを学びました。他にも本学科では実践的な内容も多く取り入れられているため、友達と話し合い、楽しみながら授業を受けることができました。また、保育の専門知識に加え、医療や発達障害についての専門知識を学ぶことができました。これらの知識は保育所や幼稚園に就職する際にはもちろん、病院や施設に就職する際にもとても役立つと思います。実践的な授業で学び、実習を乗り越えることに達成感を感じました。これからは保育者として本科での経験を現場の保育に活かしていきます。



医療保育科3期生

■**学科賞受賞者から**（深谷奈史）  
人生は何があるか分かりません。私は医療に興味があったため、入学当時は、三年次に病児保育コースを選択するつもりでいました。しかし、講義や実習を経験していく中で、純粹で独特の世界観を持つ発達障害のある子どもたちの魅力に次第に引き込まれていきました。そして「障害児への保育に熱心に取り組み保育所に就職したい」と思うようになりました。不安しかないうちで始まった本学での生活でしたが、友人や両親、学科の先生方など、多くの人に支えられ、充実した三年間でした。日々の講義や実習など、多くの経験をしたことで、人として一回り大きくなったと思います。

■**担任から卒業生へ**  
卒業生の皆様、おめでとうございます。卒業後はそれぞれの場所で、子どもたちの笑顔をより多く見られる保育を目指して頑張ってください。日々、喜びと驚き、そして感動があります。（宮津澄江）





実習風景



サークル活動



卒業研究発表会



授業風景

■「振り返ってみると」（清井和紀）  
入学してから学生生活が終わるまではあっという間でした。その中でも特に印象に残っていることは、実習と卒業研究です。

実習は、主に川崎医科大学附属病院で行われました。病院での実習は、実際に医療機器や患者さんに触れることができ、とてもいい経験になりました。また、救命救急の研修の一環として、ドクターヘリの操縦席に乗るなど、とても貴重な経験もできました。

卒業研究では、担当の先生について、テーマを基に研究を進めていきました。担当の先生には優しくしていただいたり、時には怒られたり、いろいろとありましたが、卒業論文を完成させ、無事に発表することができました。

気がつくと、もう卒業のシーズンです。振り返ってみると、忙しかったけど、充実していて、とても良い学生生活でした。本学で学んだことを生かし、立派な臨床工学技士になりたいと思います。

■「最高の青春」（榎原 祐也）

私はバレエサークルに四年間所属していました（一年多いことは、深く追求しないでください）。バレエサークルは、学業にくじけそうなき支えにもなり、学生生活をとても充実させてくれました。

学園祭では、毎年フランクフルトの模擬店を出し、みんなでワイワイお祭り騒ぎをしたこともいい思い出になっています。

一緒にムチャヤした友達、喧嘩した友達、迷惑をかけた友達。学生生活を一緒に過ごせてよかったと思える友達に巡り会えました。長いようでほんとにあつという間の学生生活でしたが、私にとって最高の青春の1コマになりました。

一年多く勉強したことによって、臨床工学科の先生に指導をたくさんしていただき、信頼関係も築け、大切なものをたくさん頂くことができました。ありがとうございました。



臨床工学科二十期生

川崎医療福祉大学  
臨床工学科へ  
歴史をつなぐ

臨床工学科  
最後の卒業生を  
送り出し閉科へ

■主任から卒業生へ  
卒業を迎えられた皆さんおめでとうございます。

皆さんのご卒業により臨床工学科卒業生は総数九七一名となりました。

皆さんの卒業と同時に一九八八年に開設した臨床工学科（開設時学科名「医用電子技術科」）は本学では閉科されますが、川崎学園内の川崎医療福祉大学医療技術学部臨床工学科にこれまでの当学科の伝統と教育実績、そして皆さんを含めた卒業生の活躍の実績が引き継がれていきます。

本学と同じ学園内にある臨床工学科から諸君の活躍を楽しみにしながら見守りたいと思います。

皆さんの今後の活躍を祈念しております。  
（小笠原 康雄）



■担任から卒業生へ

俗に言う「スーパー一年生」の担任を引き受けたのが三年前で、多少の紆余曲折がありましたが、このたび、「スーパー三年生」に進級した学生全員が卒業式に臨むことになりました。

「スーパー一年生」には少人数の教育が行われましたが、当初授業態度や出席など心配させられることしばしばで、忍耐、忍耐の日々でした。

今となれば、これはこれでいい思い出になります。大事なことは、卒業までにごだけ成長するかということです。

今の皆さんの目は輝いています。卒業おめでとう。今後の活躍を祈ります。

（軸屋 和明）



# 学友会

— 新役員紹介 —



学友会会長  
介護福祉科1年  
西川 千尋

「やるときはやる」  
をモットーに  
がんばります

皆さん、こんにちは。新しく学友会会長に決まりました介護福祉科一年の西川千尋です。行き届かない点多々あり、皆さんにご迷惑をかけることがあると思います。ですが、川崎医療短期大学を盛り上げるために一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひします。

さて、今回は学友会新役員について紹介します。新役員は平成二十一年度学園祭終了後に、先輩方やこれから学友会を引き継ぐ役員で話し合いを重ねて決めました。「適材適所」という言葉がありますが、その名の通り私を含め十八名の役員がそれぞれの能力に合った役割に就くことが出来たと思います。写真では七名しか写っていませんが、役員は全ての学科から数名ずつ集まって構成されています。役員はそれぞれの学科や男女を越えて交流があり、行事や会を進めていくことに団結力が高まっていることを感じています。それを、今後の学友会活動に大いに活かしていきたいです。

また、それぞれの役員には責任感や行動力があり「やるときはやる」といった集中力を持ち合わせているところが、今年の学友会の強みだと考えています。

十月には、大学の大きなイベントである学園祭があります。昨年の経験を基にそれぞれが自ら考えて動き、役員内で連携を



図つていくことを目指して行きたいです。これから少しずつ、学園祭に向けての活動が始まっていきます。学園祭は三日間ですが、準備にはその何倍もの時間がかかります。ですから、皆さんの協力が必要になります。学園祭が終わったときの達成感は何事にも変えられません。学校全体で学園祭を盛り上げていきましょう。ご協力よろしくお願ひします。

## フットサル部

フットサル部は、しばらくのあいだ休部状態でしたが、今年の1月から新メンバーで活動を再開しました。フットサルは、サッカーの縮小版(サッカーは11人ですが、5人でやります)というイメージがありますが、似て非なるものであり、サッカーとバスケのルールが融合したような新しい公式スポーツです。また、男女が一緒に楽しめるスポーツで、男女混合で公式試合も行われています。

練習は、毎週火曜日の放課後に、川崎医科大学附属高等学校の体育館で行っています。現在の部員は、男子14名、女子6名です。初心者もいるので、トラップ・パスワークなどの基礎練習から試合形式の練習まで、幅広いメニューを取り入れ技術の向上に励んでいます。今後は、対外試合やリーグへの加盟など、積極的に活動の場を広げていきたいと思っています。興味のある方、体を動かしたい方は、是非一度練習を見に来てください。新入部員募集中です(経験は問いません。未経験者も大歓迎です)。



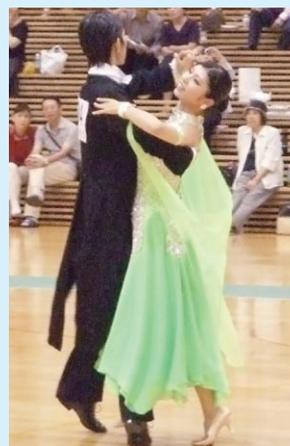
## サークル 紹介 ③

## ダンススポーツ部

私たちダンススポーツ部は、ダンスの中でも社交ダンスをしています。主な活動内容は、週3回踊りの練習に取り組み、中四国大会をはじめとした競技会に出場することです。また、年2回ダンスパーティーを開催しており、地域の社交ダンスをしている一般の方々とダンスを通じて交流を深めています。

本学と医療福祉大学の両方の部員と一緒に活動をしているため、友人の幅は広がります。そして、社交ダンスは男女が一緒にできるスポーツであるため男女の仲も良く、楽しく活動しています。

平成22年1月16日に、引退する部員がフィナーレを迎えました。これは部活動の集大成として、部員・OB・友人・家族の前でデモンストレーションを披露するものです。部員のほとんどが大学から社交ダンスを始めた人ばかりなので、初心者でも大丈夫です。ぜひ一度遊びに来てくださいね。



ハラスメント講演会開催！  
「メンタルヘルスからみた  
ハラスメント防止の要点」

ハラスメント相談室長 永瀬 澄香

ハラスメント講演会が、平成二十一年十二月二十五日(金)に本学二〇〇号大講義室(午後二時〜三時三十分)において開催されました。講師には、岡山大学保健管理センターの清水幸登先生(医師)をお招きし、「メンタルヘルスからみたハラスメント防止の要点」と題して、講演していただきました。



今回の講演会は、本学のハラスメント防止委員会とハラスメント相談室が主催し、教職員を対象として、セクハラ(セクシユアルハラスメント)やアカハラ(アカデミックハラスメント)などハラスメント防止に向けての啓蒙活動のひとつとして実施しました。

最初に、今城吉成学長から開会の挨拶があり、清水先生による興味深い講演を約七十分間聞くことができました。内容は、メンタルヘルスの重要性やセクハラ、アカハラなど、大学でのハラスメント防止に向けて、普段からどのような点に注意すべきかをわかりやすくお話ししてくださいました。講演を通して、学生との円滑なコミュニケーションから信頼関係も生まれ、ハラスメント防止の



環境づくりが大切であり、教職員のメンタルヘルス向上から良い教育が育まれるというお話に深い感銘を受けました。講演後、清水先生から、「これからも良い教育ができるよう皆さん一緒にがんばりましょう」と心温まる激励の言葉をいただきました。最後に行われた十五分間の質疑応答は、教職員からの具体的な質問に対し、丁寧に答えてくださり、活発なやりとりとなりました。

今回、講演会の参加総数は九十六名で、本学以外からも川崎医科大学、川崎医療福祉大学や学園事務局から十二名の参加者があり、盛会に講演会を開催することができました。参加者からは、「とてもわかりやすくいろいろと参考になり、興味深い内容の講演会でした。また、このような講演会を開催してください」となどの感想が寄せられました。

平成 21 年度  
ネットワーク委員会  
アンケート結果報告

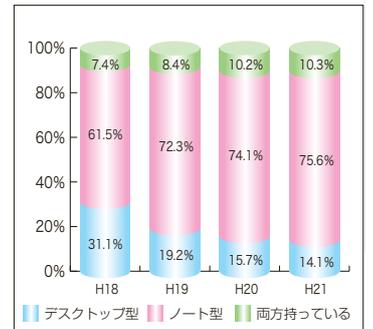


図1：パソコンの個人所持状況

学内情報ネットワーク管理運用委員会では年に一度在学生を対象に、学内におけるコンピュータ利用環境改善を目的としたアンケート調査を実施しています。今年度は十月〜十一月に実施し、八九二人のアンケートを回収しました。質問事項は、学内におけるコンピュータの利用状況、所有状況など六項目にわたります。

学内で利用するソフトはホームページの閲覧が87・4%と最も高く、ついでワード等による文書作成が76・7%と、昨年とほぼ同等の結果でした。パソコン所有の有無についての調査では、回答した学生の85・4%にあたる七四八人の学生が自分のパソコンを所持しており、アンケートを実施した過去四年の中では最も多い割合でした。また、所持しているパソコンの形態については、ノート型を所持している学生(両方持っている学生を含めて)が、85・9%という結果でした(図1)。学内でのノートパソコンを使ったインターネット使用者は、46・2%と、昨年(43・9%)よりやや増加しています。

本委員会では、今後も継続してアンケート調査を実施し、学生の要望に沿ったコンピュータ利用環境改善のために役に立てていきたいと考えています。

第十回  
「若山牧水青春短歌大賞」  
優秀賞受賞



授業の一環として応募した若山牧水青春短歌大賞(宮崎県延岡市主催)において、介護福祉科二年生の京兼里枝さんが、応募総数一五二七八首の中から優秀賞(専門学校・短大・大学生・一般部門)を受賞しました。

受賞者は、三月六日(土)に延岡市で行われる授賞式へ招待されており、当日は賞状ならびに副賞二万円の旅行券が贈呈されます。受賞した短歌は以下の通りです。

「へー」と「ほー」同じハ行であるけれど  
ランクは違う周りの評価

「若山牧水青春短歌大賞」についての詳細は、本学ホームページで紹介しています。ぜひご覧ください。

地球温暖化対策  
ワーキンググループだより

NO.8

## 川崎エコプロジェクト

エコのため、健康のため、エレベーターの利用はできるだけ控え、階段を利用しましょう。少しの配慮が大きな一歩につながります。  
ご協力をお願いいたします。

平成22年度

## 公開講座

### 第1回

#### 講座名:「知って得する介護予防」

講師: 國岡義広 (学校法人広島YMCA学園 福山YMCA事務長)  
 日時: 6月13日(日) 10:00~11:30  
 会場: 川崎医療短期大学 体育館101教室

### 第2回

#### 講座名:「全ての子どもに保育を~医療保育とは何か~」

講師: 宮津澄江 (本学准教授)  
 入江慶太 (本学助教)  
 日時: 10月9日(土) 10:00~11:30  
 会場: 川崎医療短期大学 体育館102教室

### 第3回

#### 講座名:「がん治療最前線~切らなくても治る、副作用の少ない粒子線治療とは~」

講師: 菱川良夫 (兵庫県立粒子線医療センター院長)  
 成廣直正 (本学講師)  
 日時: 11月13日(土) 10:00~11:30  
 会場: 川崎医療短期大学 体育館101教室

平成22年

## オープンキャンパス

平成22年のオープンキャンパスは、以下の予定で開催します。川崎医療短期大学をよりよく知っていただくためにも「オープンキャンパス」に参加して、模擬講義、体験実習などを通じて本学の特色を感じてください。きっと、皆さんの求めるものがあると思います。事前の予約は必要ありません。保護者、教員の皆様もお気軽にお越しください。

なお、見学は随時受け付けています。その他詳細は、教務課までお問い合わせください。

(☎ 086-464-1033 平日17:00まで、土曜日12:00まで)

	期 日	開催時間
第1回	3月20日(土)	13:00~16:00
第2回	5月22日(土)	13:00~16:00
第3回	6月13日(日)	13:00~16:00
第4回	7月25日(日)	10:00~15:00
第5回	8月21日(土)	13:00~16:00
第6回	10月 9日(土)・10日(日)	10:00~15:00

### 主要行事 (4月~6月)

4月  
 1日 新入生オリエンテーション (~6)  
 5日 新入生健康診断  
 6日 放射線技術科3年臨床実習開始 (~7/29)  
 7日 入学式  
 12日 看護科3年臨床実習開始 (~9/30)

5月  
 13日 介護福祉科2年介護実習Ⅲ開始 (毎週木曜) (~7/15)  
 15日 スポーツ大会  
 22日 第2回オープンキャンパス  
 24日 医療保育科3年幼稚園実習開始 (~6/20)  
 25日 介護福祉科1年介護実習Ⅰ開始 (毎週火・水曜) (~6/23)

6月  
 1日 学園創立記念日  
 13日 第3回オープンキャンパス 第1回公開講座  
 15日 医療保育科保育実習開始式  
 16日 医療保育科2年保育実習Ⅰ開始 (~26)

### 平成22年度一般入試前期結果

#### 一般入試前期 (試験日 1月30日、合格発表 2月6日)

	看護科	臨床検査科	放射線技術科	介護福祉科	医療保育科	計
募集人員(名)	30	28	30	10	15	113
志願者数(名)	141	108	109	3	13	374
志願倍率(倍)	4.7	3.9	3.6	0.3	0.9	3.3
合格者数(名)	55	53	49	3	12	172

平成22年度一般入試前期は、志願者数374名(募集人員113名、志願倍率3.3倍)という結果になりました。【平成21年度志願者数343名(募集人員113名、志願倍率3.0倍)】

入試情報は本学ホームページにも掲載されています。

平成23年度の入試概要は6月以降に本学ホームページで公表します。なお、詳細については、学生募集要項でご確認ください。

#### 入試に関する問合せ先

(教務課)  
 電話: 086-464-1033  
 Eメール: nyushi@jc.kawasaki-m.ac.jp

### 川崎医療短期大学広報誌「若きいのち」(68号)

2010年3月発行

編集発行: 広報誌編集委員会

藤原忠昭 (庶務課・委員長)  
 天野貴司 (放射線技術科・副委員長)  
 名木田恵理子 (一般教養)  
 橋本美香 (一般教養)  
 重田崇之 (一般教養)  
 阿部裕美 (看護科)  
 近末久美子 (臨床検査科)  
 河邊聡子 (介護福祉科)  
 中井 靖 (医療保育科)  
 重政有里 (庶務課・書記)

写真協力: 二葉写真館

印刷: 友野印刷株式会社

皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

〒701-0194

倉敷市松島316 川崎医療短期大学 広報誌編集委員会

電話: 086-464-1032 (庶務課)

Eメール: kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp

ホームページ http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/

### 学 生 表 彰

介護福祉士養成施設協会

会 長 賞

木村 友美

全国保育士養成協議会

会 長 表 彰

石原さゆり

今年もまた、卒業の季節がやってきました。卒業を迎える学生の皆さん、おめでとうございました。

さて、私は毎年、卒業シーズンには自分の学生時代を思い出してみるのが、最近では半分覚えているかどうか非常に怪しいところです。当時のスケジュール帳と数少ない写真がわずかな手掛かりで、後は自分と友人の記憶力に頼るのみです。

学生の皆さんはまだまだ若いのでこのような心配は無用でしょうが、いつか学生時代を懐かしく振り返る時、この広報誌「若きいのち」が皆さんのお手元にあることを願って、今年も卒業生を見送りたいと思います。

最後になりましたが、ご多忙の折にもかかわらず執筆のご依頼を快くお引き受けくださった方々、写真をご提供くださった方々に心よりお礼申し上げます。今後も魅力ある広報誌となるよう努めてまいりますので、ご協力・ご支援のほどよろしくお願いたします。

(重政有里)

編 集 後 記